

報告書



発行日:2021年4月30日

2020年7月4日未明、線状降水帯の影響を受けて熊本県内一級河川の球磨川(くまがわ)の上流から下流にかけて氾濫が発生しました。人吉市中神町付近で堤防が決壊し、11ヵ所で氾濫しました。被害は、熊本県南部の市町村に広がり、広範囲で土砂崩れや浸水が発生しました。また6日夕方から7日にかけて、停滞を続ける梅雨前線の影響で九州北部を中心に、猛烈な雨に見舞われました。7日朝8時、九州最大の1級河川の筑後川が大分県日田市で氾濫し、上流域の日田市、中流域の福岡県久留米市、下流域の佐賀市まで広範囲にわたり、土砂崩れや冠水の被害をもたらした。その後も西日本を中心に大雨が続き、各地で土砂崩れなどの被害が発生しました。

公益社団法人シャンティ国際ボランティア会(以下シャンティ)は、被災地支援に取り組むため、2020年7月28日よりスタッフを派遣し調査を開始しました。また新型コロナウイルス感染症拡大防止策として7月14日より山

口県にて2週間の隔離を実施しました。

初動調査・物資配布

発災3週間後の7月28日から、シャンティスタッフ3名を派遣しました。発災当初より新型コロナウイルス感染症の影響を考慮する必要があり、スタッフは東京から山口まで移動後、2週間の隔離を行いました。その間に平時から繋がりのある団体や被災地域の寺院と連絡を取り、協力をいただきながら、熊本県人吉市や福岡県大牟田市などの避難所を中心に、調査及び物資配布を行いました。物資配布では、被災直後に必要とされる消毒用ハンドジェルや体を拭うボディシート、女性や高齢者を対象としたナプキン、尿漏れパッド等の衛生用品、クレンジングシートや化粧水、保湿クリームを含む基礎化粧品などを配布しました。シャンティは調査に基づいて、熊本県人吉市及び球磨村、芦北町と福岡県大牟田市を中心に3つの活動を行うことにしました。



支援物資の配布の様子



被災者への聞き取り調査

【配布物資及び調査 実績】

*対象避難所…熊本県人吉市2ヵ所、福岡県大牟田市2ヵ所

ボランティアバスの運行

1つ目の活動は、被災地域でのボランティアのマンパワー不足を緩和することを目的としたボランティアバスの運行支援です。平成28年熊本地震でも協働した実績のある、特定非営利活動法人れんげ国際ボランティア会(以下 ARTIC)と協働で ARTIC 本拠地のある熊本県玉名市から毎週土曜日に人吉市及び球磨村へボランティアバスを運行しました。



たる活動を実施することができました。



ARTIC との調査を踏まえての打合せ

例年であれば、大勢のボランティアが全国からかけつけ支援活動を行います。今年には新型コロナウイルス感染症の影響で被災地の多くの自治体がボランティアの募集範囲を県内に絞りました。一方被災地では、ボランティアを要請している被災宅にボランティアが回り切れず、1週間以上ボランティアを待ち続ける被災宅もありました。このように被災地ではボランティアのマンパワー不足によって思うように片付けが進まない状況がありました。初動調査から被災地県内の団体と連携しながら調査を進めることができたため、いち早くこのような状況に対応する支援を組み立てることができました。

ボランティアバスの活動では、被災地域の家屋の片付けだけに留まらず、農地に流れ着いた災害廃棄物の撤去や被災した旅館内のブラッシング、被災地域のコミュニティ再生のための集まりのお手伝いなど、多岐にわたる活動を実施することができました。

バス車内でのオリエンテーションの様子



乗車前の健康チェックの様子



作業風景

【ボランティアバス運行 実績】

8月29日～12月26日(毎週土曜日)

運行回数:17回

参加人数:133名

民間ボランティアセンターの運営サポート及び傾聴活動



た民間ボランティアセンターのサポートを行いました。また地元で子ども食堂を行っている団体を中心とした炊出しチームが立ち上がったので、炊出し支援のサポートも行いました。炊出し支援の活動が

2つ目の活動は、民間ボランティアセンターの運営サポートと傾聴活動です。福岡県大牟田市では市内南部で住宅地から諏訪川に排出するポンプ場が停止し、近隣で*床上浸水 1,251 棟・床下浸水 908 棟の被害が出ました。今回の災害を機に大牟田市内の団体を中心に結成した「おおむた災害支援チーム」で立ち上げ



終わる頃、一緒に活動した団体の方々や地元民生委員の方々との会話の中で、居場所だけでも続けた方が良いのではないか、と提案がありました。シャンティでも出来る限り地元の意向に添いたいと考え、感染症対策をしながら居場所づくりのサポートを行いました。

*大牟田市地域防災計画(令和2年12月修正)より



建築士相談会のサポート

炊出しの配布と被害聞き取り調査



サロンと併せて実施した健康体操の様子



地域住民さん主体の炊出しのサポート

【民間ボランティアセンターの運営サポート及び傾聴活動】

対象地域:福岡県大牟田市

【炊出しサポート実績】9月29日～10月30日:計10回

配布者数:合計 2,100名分

【居場所づくりサポート実績】11月10日～12月25日:計14回

利用者数:合計 179名

蔵書支援



3つ目の活動は、熊本県南部の被災した小中学校への蔵書支援です。支援をした小中学校3校は、校舎の一部または全体の被災により、プレハブ校舎や他校の校舎で授業を再開しました。特に球磨村立渡小学校は被害が大きく、校舎を使うことが全くできなくなったため、他校の運動場にプレハブ校舎を設置して授業を再開しました。しかし、渡小学校の子どもたちは、間借りしている他校の図書室を自由に利用することができず、図書に触れる機会がなくなってしまいました。そこで、シャンティはプレハブ校舎で学んでも子どもたちが自由に本を手にとって読めるように、図書と書架の支援をしました。

渡小学校以外の支援対象校も、図書室の被災や他校の校舎での授業再開により、自由に図書にアクセスできなくなっていました。シャンティは、これらの小中学校3校に対し、計694冊の蔵書および書架を支援しました。

支援後のモニタリングによって、8割以上の子どもたちが図書を自由に利用できていることが分かりました。また、教頭先生からは、「生徒の多くが被災しており、慣れない避難生活と間借りの学校生活を送っている。子どもたちなりにストレスも溜まる中、読書をすることで好きな世界、未知の世界に入り込むことができ、心が解放される時間を存分に楽しめるようになった。」とのコメントをいただきました。



【蔵書支援の実績】

対象の小中学校…球磨村立渡小学校、芦北町立佐敷小学校、芦北町立佐敷中学校

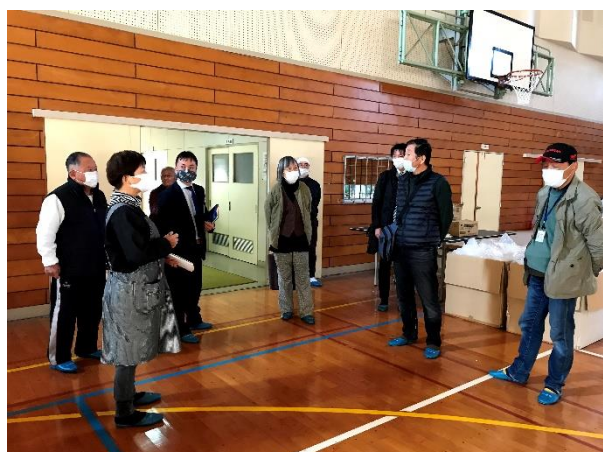
支援内容…蔵書計694冊、2校に対して書架

自主防災組織立ち上げ支援



自主防災組織研修会

福岡県大牟田市では、居場所づくりサポート活動の中で一緒に活動していた地元住民さんから自主防災組織について知りたいと相談がありました。シャンティでは平時から繋がりのある、東京災害ボランティアネットワークと2019年の佐賀豪雨を機に発足した(一社)おもやいの2団体に協力頂き、2回に渡って自主防災組織についての研修会を開催しました。また、過去に他の地域の自主防災組織が中心となって実施した「防災まちあるき」の重要性についても学び、3月には被災地域内で「防災まちあるき」を実施することができました。



避難所として使われる体育館の見学



防災まちあるきの様子

「防災まちあるき」について

「防災まちあるき」とは防災減災の目線で自分達の住む街を歩き、防災減災に役立つ資源を見つけたり話合いながら災害時のイメージを共有するプログラムです。また多様な世代や業種の方々に参加してもらうことで地域で顔の見える関係が構築され、日頃の防犯や災害時の地域の助け合いに繋がる活動として取り組まれています。

【実施した研修会とイベントの実績】

1回目:2021年1月24日

参加者数:15名

2回目 2021年2月28日

参加者数:23名

防災まちあるき 2021年3月14日

参加者数:60名

会計報告**【収入】**

	項目	金額(円)
収入	個人・関係団体・企業などからの支援金	18,302,062
	(うちジャパン・プラットフォーム資金)	(10,876,421)

【費用】

	項目	金額(円)
現地事業 実施経費	物資配布	301,470
	ボランティアバスの運行	2,968,231
	民間ボランティアセンター運営サポート及び傾聴活動	1,582,697
	蔵書支援	1,250,512
	自主防災組織立ち上げ支援	437,929
	共通経費	1,234,085
	移動・宿泊費	3,611,091
	職員(派遣スタッフ)人件費	2,486,970
		職員(本部スタッフ)人件費
	一般管理費	2,366,702
	監査費用	200,000
	費用総額	18,260,519

職員を派遣しての活動は2020年10月末で終了しました。

以降は九州圏内団体の協力を頂き、活動に必要な情報提供、関係団体との連携、資金提供など現地活動を後方からサポートする形で支援を行いました。あわせて自主防災組織についての研修会実施に向けての調整準備を行いました。

今回、新型コロナウイルス感染症の影響を考慮した災害対応となりました。被災地でも復旧復興の歩みに大きな影響を与えた新型コロナウイルス感染症。シャンティの派遣職員は、2週間隔離と毎日の健康管理シート行動履歴の記録を行い現地での活動を行いました。今後も現地で出会い協力してきた団体と連携し可能なサポートを続けていきます。

当事業は、「ジャパン・プラットフォーム」と「パルシステム生活協同組合連合会」からの助成金と皆様のご支援を受けて実施しました。



東京都新宿区大京町 31 慈母会館 2, 3 階

TEL 03-5360-1233

FAX 03-5360-1220

URL <https://sva.or.jp/>